

北信地域障がい福祉自立支援協議会 議事録

部会名 令和7年度 第3回 精神部会

開催日時 令和7年9月24日(水)13:30~15:00

参加者所属機関名等

北信保健福祉事務所健康づくり支援課、北信保健福祉事務所福祉課、中野市福祉課、飯山市保健福祉課、山ノ内町健康福祉課、木島平村民生課、野沢温泉村民生課、栄村民生課、北信総合病院、佐藤病院、りんごの木共同作業所、NPO ここから、飯山市地域活動支援センター、つくしの家、クローバー、未来工房つむぎ、訪問看護ステーションせせらぎ、デイホームこころ、北信圏域障害者生活支援センター、ほくしん圏域就業・生活支援センター、北信圏域障害者総合相談支援センター

本日のテーマ、課題等

- ①開会 ②第1回精神障がい者地域生活支援コーディネーター等連絡会議について
③第2回部会を終えて ④その他 ⑤閉会

会議で話し合われた事

(1) 開会

(2) 第1回精神障がい者地域生活支援コーディネーター等連絡会議について

北信保健福祉事務所、事務局、より、9月3日に開催された「精神障がい者地域生活支援コーディネーター等連絡会議」の内容について報告があった。

- ・県内10圏域の状況共有をする中で各圏域から、地域移行を見据えた「一人暮らし体験ができる事業」を検討している取組が紹介された。
- ・また、ピアサポーター養成の状況についても共有があり、積極的に養成を進めている地域もある一方で、体調面の不安がある当事者も多く、役割を固く限定するより、事業所の紹介や案内など「気軽に関われる存在」として位置付けている圏域もあるとのことで共有がされた。

(3) 第2回部会を終えて

○事例検討のふり返り

第2回精神部会では、病院や事業所から長期入院を経て地域移行に取り組んでいる事例が提供された。この方は統合失調症の診断を受け、入退院を繰り返してきたが、病院からグループホームへ入居し、その後はB型事業所での活動や一般就労を経験しながら、一人暮らしを目指して準備を進めている。

議論では、まず「なぜこの事例はうまくいったのか」という視点から整理が行われた。本人自身に「家で暮らしたい」「仕事をしたい」という明確な意思があり、まじめで素直、他者の意見を受け止め前向きに捉えることができる特性があったことが強調された。また、支援者は本人の特性を踏まえ、小さな成功体験を積み重ね、段階的な支援を行いながら、急がず本人のペースに合わせて関わった。さらに、デイケア等を通じて生活リズムが整い、病院と地域支援者との連携も密接で、円滑な橋渡しが行われた点が成功要因として挙げられた。家族についても本人の希望を受け止め心理的に支え続けたことが、安心して地域へ送り出す基盤になったと共有された。

一方で、今後に向けた課題として、定期的な通院や服薬管理の支援、訪問看護の導入、体調や生活リズムの可視化と不調サインの共有、支援者の交代を見据えた市町村保健師や圏域センターとの引継ぎ体制の強化が必要であることが指摘された。また、過去にギャンブルでの借金があったことから、成年後見や信託といった金銭管理支援の検討も必要とされた。さらに、民生委員など地域のインフォーマル資源とつながりを持ち、見守りを支える体制づくりの重要性も確認された。

最終的に、本ケースは精神科領域において比較的まれな成功事例であり、長期入院を避けるための予防的支援、そして地域に戻る過程での家族支援の重要性が再確認された。今後の精神部会の活動においても、この事例から得られた知見を踏まえ、地域全体での支援の在り方を引き続き検討していくことが確認された。

○グループワーク（その後、全体共有）

グループワークでは、地域移行後の生活を支えるための具体的な課題や方策について意見交換を行った。まず金銭管理については、日常生活自立支援事業が適正化の流れの中で利用しにくい現状があることが指摘された。また、成年後見制度についても手続きや運用のハードルが高く、実際に活用するのは難しい状況にあるとの意見が出された。

次に医療との連携については、訪問看護が地域生活を支える大きな柱となっていることが共有された。北信圏域では「あやめ」「せせらぎ」が中心的に活動しており、通院同行、買い物、家事支援、書類整理など、従来の医療支援にとどまらず生活面にも関わっている現状が紹介された。一方で、こうした支援が居宅介護サービスとの役割分担を不明瞭にし、場合によっては本人の自立度の低下につながる懸念もあるとの意見もあった。併せて、訪問看護だけでなく地域保健師の訪問も柔軟に取り入れていくことが有効ではないかという提案もなされた。

最後に地域連携の観点では、前回の事例を踏まえると、サービス利用が終了した後の支援が課題となる可能性が指摘された。その対応策として「自立生活援助」を活用し、本人に本当に必要な支援を見極めながら継続的に支えていく仕組みが有効ではないかとの意見が出された。

（４）その他

（５）閉会